

【ようこそ「秋保の民話」へ】

仙台下と山形とを結ぶ交通・交易の拠点であった秋保郷。江戸時代から続く民話や伝承を記録した「遠野物語」。秋保と遠野は地理的、地勢的に共通点があり、遠野物語ほど数は多くないものの秋保にも多くの民話、伝承が残されています。

日常から離れて癒されたいとき、晴れやかな青空を眺めたいとき、里山の木々に包まれリフレッシュしたいとき、そんな時にはぜひ秋保郷を訪ね歩くことをおすすめします。

秋保郷には民話に登場する日本の原風景が残っています。このパンフでは、民話の情景を色濃く残す場所、大切に受け継がれている昔話を紹介しています。

秋保の民話の伝承活動として、定期的に民話語りを行っています。どうぞお立ち寄りください。

- 場 所 秋保・里センター(観光案内所)
- 活動日 毎月第2、第4日曜日 10時30分～11時30分

秋保 いってみっぺ

長袋の民話

往古千年の街道に、語り継がれる物語がある。

自然、歴史、喜び、悲しみ・・・

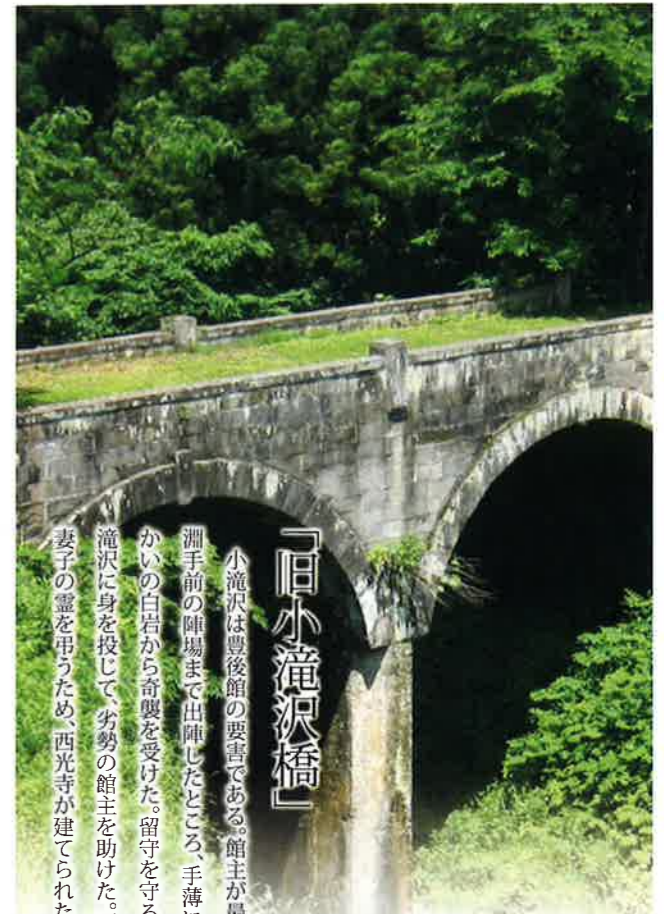
長袋を歩いて巡る、昔語りの舞台への旅。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.13

掲載されている情報は、平成29年3月現在のものです。

磐司岩に住む磐次郎・磐三郎が、鬼はばが住む長袋に向けて矢を放ったところ、石ヶ森山をかすめたために、失速して手前の畑に突き刺さった。その矢はそのまま逆さになって根付いたので、人々はこれを「逆さ竹」と呼び今も大切に保存している



「旧小滝沢橋」

小滝沢は豊後館の要害である。館主が最上勢をむかえ討つため、釜淵手前の陣場まで出陣したところ、手薄になった館を狙い名取川向かいの白岩から奇襲を受けた。留守を守る奥方は吾が子を抱いて小滝沢に身を投じて、劣勢の館主を助けた。別に「子抱き沢」ともいわれ、妻子の霊を弔うため、西光寺が建てられた



「清水窪」

白拍子「静御前」が、義経の後を追って、秋保の長袋の地まで来て倒れていたところ、野中の旧家の祖先に助けられたが、義経討死の報を聞き、悲しみのあまりこの地で亡くなった。その墓が二口街道脇に建てられたと伝えられている



「おせん地蔵」

二口街道を行き来する旅人が、辻斬りに襲われ命を落としたり、供養に訪れていた娘のおせんも切りつけられたが、刀は三つに折れ、娘の命は助かった。それは、六尺あまりの大石が身代わりになってくれたのだという